

企画展「琵琶湖文化館所蔵の名品－彦根ゆかりの書画とやきもの－」  
展示作品リスト

番号	名称	数量	作者	時代	所蔵
1	長春孔雀図	1 幅	張月樵	江戸時代後期	滋賀県立琵琶湖文化館
2	養老滝図	1 幅	広瀬柏園	文久元年（1861）	滋賀県立琵琶湖文化館
3	武陵桃源図	1 幅	広瀬柏園	文久元年（1861）	滋賀県立琵琶湖文化館
4	書「蘭亭序」	1 幅	日下部鳴鶴	明治8年（1875）	滋賀県立琵琶湖文化館
5	詩書「烟罩遥…」	1 幅	日下部鳴鶴	明治～大正時代	滋賀県立琵琶湖文化館
6	詩書「帰去来辞」	6 曲 1 双	日下部鳴鶴	明治36年（1903）	滋賀県立琵琶湖文化館
7	詩書「顔齡七十六…」	6 曲 1 双	岡本黄石	明治20年（1887）	滋賀県立琵琶湖文化館
8	詩書「肅雍曾事…」	1 幅	谷鉄臣	明治23年（1890）	滋賀県立琵琶湖文化館
9	詩書「月出緑揚汀…」	1 幅	谷鉄臣	明治時代	滋賀県立琵琶湖文化館
10	人物画賛「奈此人間…」	1 幅	西村捨三	明治24年（1891）	滋賀県立琵琶湖文化館
11	和歌「新内裏御会始詠天晴有鶴声」	1 幅	長野義言	江戸時代後期	滋賀県立琵琶湖文化館
12	湖東焼 赤絵金彩唐人物図酒杯	2 口	幸斎	江戸時代後期	滋賀県立琵琶湖文化館
13	湖東焼 色絵花卉図鉢	1 口	鳴鳳	江戸時代後期	滋賀県立琵琶湖文化館
14	湖東焼 染付龍鳳凰図手桶型水指	1 口		江戸時代後期	滋賀県立琵琶湖文化館
15	湖東焼 染付牡丹孔雀図四段重箱	1 組		江戸時代後期	滋賀県立琵琶湖文化館
16	湖東焼 染付松竹梅図煎茶碗	5 口		江戸時代後期	滋賀県立琵琶湖文化館

## 作品解説

1 ちょうしゆん くじやくず 長春孔雀図 一幅 (作品リストNO. 1)  
ちょうげつしょう 張月樵筆

縦132.5cm 横79.0cm

江戸時代後期

滋賀県立琵琶湖文化館所蔵

ちょうげつしょう 張月樵 (1772 [1765とも] ~1832) は、名は行貞、字は元啓、通称晋蔵のち快助、別号は醉霞堂といひます。いしかわくんけい彦根城下の表具師の家に生まれ、京に出て、同国坂田郡醒井村出身の市川君圭、後、まつむらげつけい松村月溪 (呉春) に学びました。旅で立ち寄った名古屋に住みついて画名が上がり、尾張藩の御用もつとめ、帯刀も許されています。名古屋では中国古画等を積極的に学んで画風を広げ、誇張やデフォルメをさかさせた特徴ある画を描いていた様子が窺われます。本作は、画題、構図、筆法いずれも典型的な円山四条派の範疇に入るもので、比較的若描きの作かと思われま



2 詩書「<sup>ししよ ききらいのじ</sup>帰去来辞」 六曲一双（作品リストNO. 6）

<sup>くさか べめいかく</sup>日下部鳴鶴筆

紙本墨書

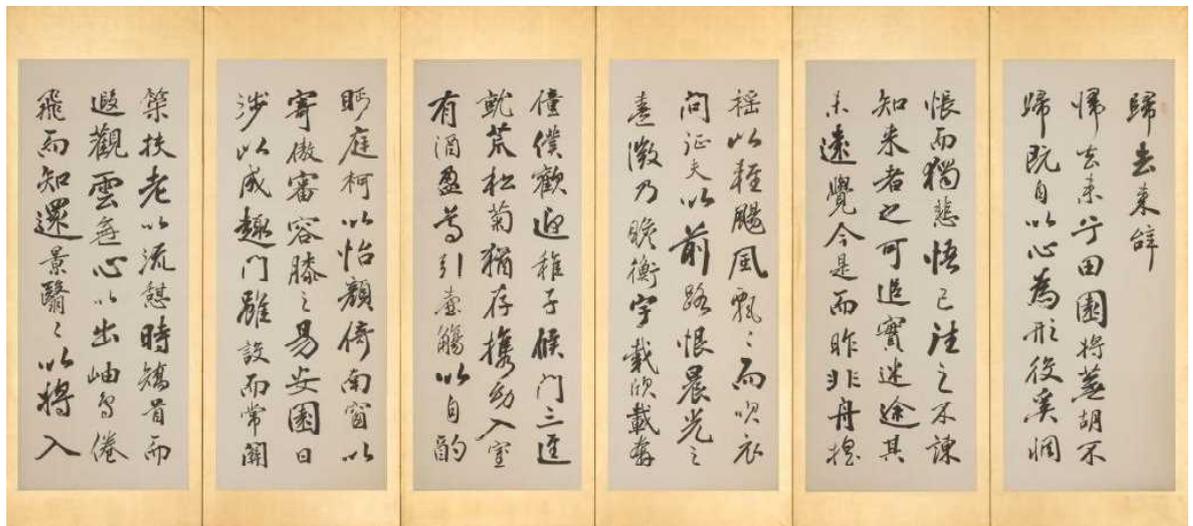
各 縦138.2cm 横54.2cm

明治36年（1903）

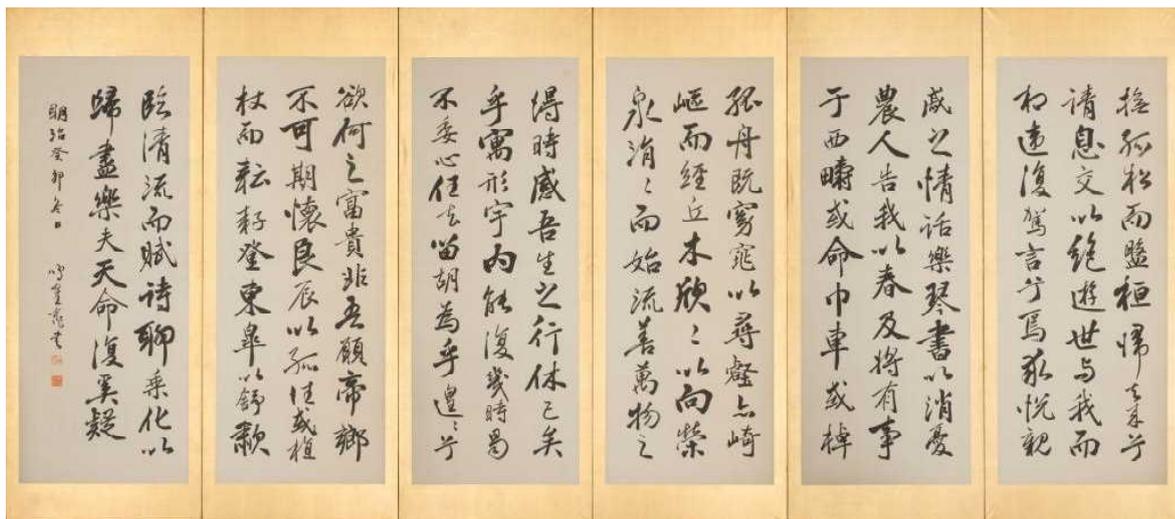
滋賀県立琵琶湖文化館所蔵

<sup>くさか べめいかく</sup>日下部鳴鶴（1838～1922）は、彦根藩士出身で、近代の代表的な書家。東京に出て明治新政府の太政官内閣大書記官まで進みましたが、明治12年（1879）、42歳で官を退いて書の道一筋で生きていくことを決意しました。翌年には、来日していた清国の地理学者で金石学に通じていた楊守敬に書および金石学を本格的に学び、中国・六朝時代の書を基本とする書風を確立し、後世にも多大な影響を与えました。

「<sup>とうえんめい</sup>帰去来辞」は、中国・六朝時代の東晋の詩人、陶淵明の代表的な作品で、官位を辞して故郷に帰り、田園生活に生きようとする決意が述べられています。本作は、バランスのとれた伸びやかな行書で揮毫され、鳴鶴の円熟期の充実度が知られます。



▲右隻



▲左隻

3 湖東焼 色絵花卉図鉢 一口 (作品リストNO. 13)  
鳴鳳絵付

高8.0cm 口径18.2cm

江戸時代後期

滋賀県立琵琶湖文化館所蔵

赤や黄、緑などの釉薬で絵付を施した鉢。側面には紫陽花と紅白の梅花、見込には風露草と蝗が描かれています。鳴鳳は湖東焼の代表的な絵付師で、井伊家13代直弼の頃に活躍しました。鳴鳳といえば、赤絵金彩の作品がよく知られていますが、本作では珍しく色絵の技法が用いられています。余白を効果的に残した模様配置に、鳴鳳らしい創意が感じられる作品です。

